

ハスモンヨトウの防除対策について

県内各地に設置してあるフェロモントラップにおいて、ハスモンヨトウの誘殺虫数が増加しています。今後、タイモ、へちま、にがうり、オクラ及びチンゲンサイ等で被害の多発が予想されますので、圃場および周辺雑草地等を見まわり、早期発見・防除に努めましょう。

1 発生状況

- (1) 7月上旬のフェロモントラップへの誘殺虫数は、糸満市で 1,751 頭(平成 975 頭)と多く(図1)、沖縄市でも 1,201 頭(平成 648 頭)とやや多かった(図2)。また、防除技術センター本所内(那覇市)に設置しているフェロモントラップにおいても誘殺虫数が増加している。
- (2) 7月上旬、沖縄本島中部から、ハスモンヨトウ幼虫に食害されたタイモ、にがうり及びチンゲンサイが病害虫防除技術センター本所に持ち込まれた。
- (3) 7月 12 日に沖縄本島中部地域のタイモ圃場を調査した結果、全調査圃場でハスモンヨトウによる葉の食害がみられた(表1、図3)。
- (4) 上述の調査時において、ハスモンヨトウの若・中・老齢幼虫が確認された。また、イッポンセスジスズメ幼虫も多くみられた。

2 生態

- (1) 周年発生するが、野菜類では6～7月に被害が多い。
- (2) 卵は数百個を卵塊として葉上に産み付けられ、成虫の鱗毛で覆われる。
- (3) 幼虫は体色の変異が著しく、灰色、暗色及び暗褐色など様々である。
- (4) 幼虫は極めて広食性で、タイモの他、へちま、にがうり、オクラ及びチンゲンサイモなどの露地作物を食害する。

3 防除対策上注意すべき事項

- (1) 幼虫は見つけしだい捕殺する。とくに、卵塊や集団化している若齢幼虫の捕殺が有効である。
- (2) 天敵である卵寄生蜂や捕食者を保護する。
- (3) 那覇市の 7 月及び 8 月 平成平均気温が 28.9℃及び 28.7℃であることから、発育零点及び有効積算温度より、本種の卵期間は 3～4 日、幼虫期間は 12～14 日であり、4～6 日間隔で防除することが望ましい。

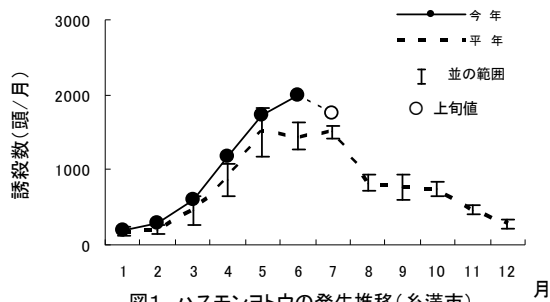


図1 ハスモンヨトウの発生推移(糸満市)

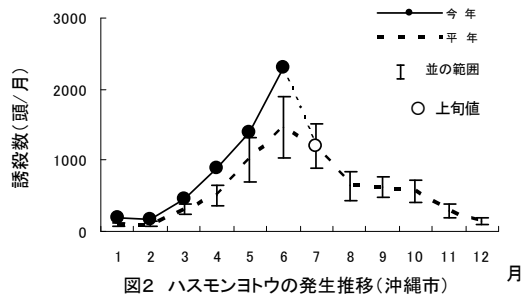


図2 ハスモンヨトウの発生推移(沖縄市)

表1 タイモ圃場におけるハスモンヨトウ幼虫の被害程度

生育段階	調査圃場数 ¹⁾	被害程度 ²⁾					齢期
		甚	多	中	少	無	
収穫期	2	2	-	-	-	-	若齢～老齢
生長期	4	4	-	-	-	-	若齢～老齢
苗期	4	3	1	-	-	-	若齢～中齢
計	10	10	-	-	-	-	

1)1圃場当たり50株、全葉の被害度を調査した。

2)被害度は、被害程度を0:食害を認めない、1:食害面積率が葉面積の1%以上10%未満、2:食害面積率が葉面積の11%以上25%未満、3:食害面積率が葉面積の26%以上50%未満、4:食害面積率が葉面積の50%以上とし、被害度=Σ(被害指数×被害指数別葉枚数)×100/(最大被害指数×全調査葉数)から算出した。



図3 被害を受けたタイモ圃場

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL: (本所)098-886-3880、(宮古駐在)0980-73-2634、(八重山駐在)0908-82-4933
ホームページアドレス : <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichuboj/index.html>